

# 会派視察報告書

会派名：西尾みらい

参加者：藤井基夫 黒辺一彦 磯部雅弘 山本道代

視察先：令和4年7月11日 京都府宇治市

7月12日 大阪府和泉市

7月13日 大阪府泉大津市

## 【第1日目】京都府宇治市

「宇治茶の普及とおもてなしの心の醸成に関する条例」について

【日時】令和4年7月11日 13時30分～15時

【場所】宇治市役所

### 1. 宇治市の概要

本市は、京都府の南部、京都盆地の東南部にあり、京都市や大津市と隣接する。人口は約18万人で、京都市に次ぐ京都府内の第二都市でもある。

ユネスコ世界遺産ともなっている平等院、宇治上神社等の文化財や宇治茶等の特産品で知られる。西側に非常に大きな巨椋池があったが干拓地となり、現在は農地と住宅地と商工業地になっている。

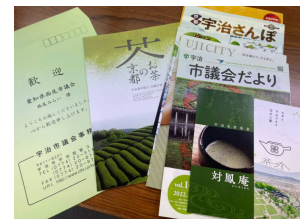


### 2. 調査事項の概要

「宇治茶の普及とおもてなしの心の醸成に関する条例」は、本市が宇治茶発祥の地であることに誇りを持ち、宇治茶の消費拡大等による「宇治茶の普及」や、客人に宇治茶をふるまうことを通した「おもてなしの心の醸成」により、先人たちが築き上げてきた宇治茶の伝統、文化、産業を守り国内外に情報発信することにより、本市がより発展することを目指すために制定されたとしている。

西尾市でも合併10周年を迎えた令和3年に、『西尾の抹茶おもてなし条例』という類似の条例を制定した。

この条例を活かして、西尾市においても発展に寄与できるように調査する。



### 3. 主な質疑・答弁

#### ① 条例制定の経緯はどのようなか。

宇治茶は本市の象徴であり、全国に誇る銘茶の代名詞となっている。しかし、現在の抹茶ブームにおいては加工用抹茶の需要は伸びているものの市内産宇治茶を取り巻く環境は厳しいものがあると言える。そのような中で、市民との対話ミーティングでの提案をきっかけに条例制定に動き出すこととなった。

#### 経緯の概要

平成25年11月 : 「市民と市長の対話ミーティング」 → 茶業関係者などから茶業振興の提案を受け、市長より「宇治茶でおもてなし条例」の制定を表明。

平成26年5月 : 市民環境常任委員会・関係団体に対して、条例の考え方等意見聴取を行う。

平成26年6月 : パブリックコメント実施

平成26年9月 : 9月議会に条例提出

平成26年10月 : 条例制定



② 参考にした事例はあるか。

静岡市「静岡市めざせ茶どころ日本一条例」(平成21年4月施行)  
うきは市「お開きは、うきはの茶で乾杯条例」(平成26年4月施行)など

③ 制定による効果はどのようなか。

制定後、各自治会などで自発的に宇治茶を用いた茶香服(ちゃかぶき)を行うなど宇治茶への関心と消費が少しずつ図られている。  
※茶香服(ちゃかぶき)とはお茶の飲み比べをする昔からの遊び



④ 市民の周知度はどのようなか。

制定後(平成26年11月)、「条例制定記念宇治茶でおもてなし」と称して JR 宇治駅、京阪宇治駅にて来訪者に対して振る舞いを行い条例を周知するイベントを行った。また、「宇治茶おもてなし推進事業」を創設して継続的に宇治茶の振興とともに条例の趣旨の浸透を図っている。

◎市の取り組み

市としての宇治茶への関りについては、これまで各課で対応が異なっていたものが、条例制定後は全庁的に条例の内容に沿った形となり、統一された意識づけができた。

【例】

- ・来客者に対して市内産玉露かりがね(茎茶)を急須で入れて出す。
- ・職員に対して、宇治茶の知識とお茶の淹れ方研修の実施。
- ・教育部、小学3年生の「宇治学」学習の中で抹茶を用いた体験学習を実施。
- ・観光部、「宇治茶巡りガイドツアー」の実施。

⑤ 関連商品などの開発は行っているか。

条例制定を記念したプレミアム茶「碾玉」を開発した。※現在は販売終了

⑥ 関連する年間の予算はどれほどか。

(1)市内産宇治茶ブランド化推進事業

平成27年：8,000千円 平成28年：8,250千円 平成29年：3,570千円  
平成30年：4,000千円

(2)宇治茶おもてなし推進事業

平成27年：1,653千円 平成28年：1,292千円 平成29年：1,703千円  
平成30年：1,563千円 令和元年：1,219千円 令和2年：1,411千円  
令和3年：1,328千円 令和4年：1,280千円

⑦ 現状の課題と今後の展開はどのようなか。

条例制定から8年が経過してマンネリ感は否めない。

昨年、お茶と宇治のまち歴史公園がオープンしたことと本年11月には本市で9年ぶりに全国お茶まつりが開催されるので、市、市民、茶業者の役割を再認識できるような啓発を図ってきたい。

## 【所見・西尾市政への反映に向けた課題】

### 所見 1

平成 25 年 11 月 9 日「市民と市長の対話ミーティング」の中での提案をきっかけに、パブリックコメントを経て、平成 26 年 10 月 16 日に条例制定となった。条例制定をきっかけに各自治会等で自発的に茶香服(お茶の飲み比べ)が行われるようになり、また、ブランド化を図るための「市内産宇治茶ブランド推進事業」や宇治茶の振興を図るための「宇治茶おもてなし推進事業」を創設して条例の浸透に努めている。本市にも同様の条例があるが、宇治市と比べると条例の浸透はもちろん周知も不十分と感じた。



いろいろな周知施策の中で一番感心させられた事業は、小学校 3 年生が対象で教育委員会が作成した「宇治学 副読本」を用いての授業である。本市は、旧西尾市の中学校の生徒を対象に「学校茶摘み」を実施しているが、旧郡部においてのお茶に対する関心度は低いように思われる。「西尾の抹茶おもてなし条例」を市全体に周知させるには、参考にすべき事業のひとつだと感じた。

### 所見 2

お茶はのどだけでなく、心を潤すものである。宇治茶の普及とともに、客人への振る舞い、おもてなしの心の醸成により、伝統、産業を守り続ける。ただ、西尾市同様、条例が市民になかなか馴染んでいかないことに課題を持っている。「宇治茶」のステキをつたえようという宇治市独自の副読本を作成し、小学 3 年生から学びに加えている取り組みは、地元愛の醸成に役立つものとたいへん評価できる。やはり、子どもから巻き込んで伝えていくことは、遠回りのようであるが必要であると感じた。事務局員による丁寧な送迎により、おもてなしの心の一端を垣間見ることができた。ほんとうにお世話になり感謝している。本市においても、見習うべきは見習い実践するようにしたい。

### 所見 3

全国に誇る銘茶の代名詞となっている宇治茶。抹茶ブームによって、加工用の抹茶の需要は伸びているが、市内産宇治抹茶を取り巻く環境は、厳しいようである。「市民と市長の対話ミーティング」で、提案を受けたところから「宇治茶でおもてなし条例」の制定がされ、現在約 8 年経とうとしているが、市民へ条例の周知については、マンネリ化しているようで、本市と同様の課題があると感じた。小学校 3 年生が勉強する「宇治学」副読本では、職員から、生産組合、商工会議所などが連携して、お茶が作られるところから、お茶摘みについて、入れ方や飲み方など、時間をかけて学び、分かりやすい教本で、郷土愛を高めているところが魅力的であった。まず子どもに関心を持ってもらうことで、大人も関心を持つようになる。時間がかかるかもしれないが、本市においても、条例の周知は、イベントや子どもたちの学習を通じて、地道に活動し、知っていただくことが必要であると感じた。

### 所見 4

地場産業を郷土愛に繋げるうえで、市民への動機づけはとても大切である。今回の視察により、理念条例を浸透、活用することの重要性と難しさを改めて確認することができた。また、マンネリを招かないための、先手を打つ戦略も考えていかなければならないと感じた。宇治茶ブランドは西尾市にとっても常に対象となる産業であるため、今後の展開にも注視していきたい。



## 【第2日目】大阪府和泉市

### 学習支援事業「いずみ希望塾」について

【日時】令和4年7月12日 13時30分～15時

【場所】和泉市役所



#### 1. 視察地の概要

和泉市は、大阪府の泉北地域に位置する市であり、面積は 84.9km<sup>2</sup>、人口は約 18 万 6 千人である。オイルショック後から大阪都心のベッドタウンとして開発が進み、かつては人口増加率で大阪府下 1 位を記録するなど、宅地造成が活発に行われていた。よって市では、新しい道路や施設の整備、企業誘致や観光振興など、様々なサービス改善に力を入れている。

#### 2. 調査事項の概要

未来を担う子どもたちのために、和泉市では子育て世帯の状況を詳細に把握し、子どもの貧困の実態、背景、子どもへの影響および、支援ニーズ等について調査・分析を行い、子どもの貧困対策にかかる福祉・教育施策の方向性を検討した結果、学ぶ意欲があり、民間塾(英会話・家庭教師を含む)に通えていない子どもに対して、自治体が塾を開設している。生活困窮家族における貧困の連鎖を断ち切るための事業である。

#### 3. 主な質疑とその回答

##### ① 開塾の目的はどのようなか。

家庭教育における学習習慣の定着、自学自習力の向上、放課後の居場所づくり

##### ② 運営委託業務事業者選定に至る経緯は。

入札でなく、プロポーザル方式による選定。

現在は、「家庭教師のトライ」が事業を請け負っている。

少人数の児童・生徒での個別授業スタイルに対応できる人数の講師が必要。

##### ③ 民間塾との違いはどのようなか。

試験の点数アップよりも、学習意欲の向上が主眼である。

月謝は無料であるが、教材費 3,240 円税込は、各自負担。

##### ④ 今までの予算と取り組み状況、それによる成果をどのように捉えているか。

約 4,600 万円に加え、会場費 400 万円でおおよそ 5,000 万円。市内 6 会場において各会場 80 回を開催している。毎年、募集以上の希望者があり、本人、保護者面談、家庭の経済的な状況を考慮し、総合的に選考している。令和2年度より、小5から小4に受け入れを拡大している。出席率、理解度確認テスト、アンケートの考察より、目標である基礎を身につける、学習習慣が身につくの2点については、80%以上達成している。

##### ⑤ 児童、生徒、保護者の意見はどのようなか。

小学生では、勉強が好きになった、よくわかるようになった、家での勉強時間が長くなった、他の学校の人と仲良くなったなど。

中学生では、ここには先生がたくさんいるから聞きやすい、わからないところをわかるまで教えてくれる、勉強する時間ややり方がわかった、いろいろな先生に教えてもらえてよかった、来年も申し込みたいなど。

保護者も子どもに比例して同様の好意的な意見が多い。

#### ⑥ 現在の課題と今後の展望は。

いずみ希望塾に通う子どもたちのニーズに変化がみられたことや多くの希望者を受け入れられていないこと、欠席の続く子どもがいることなどから、無断欠席への対応強化、予算の倍増（約9,000万円）により、450人から900人への受け入れ増員、週1回集合でオンライン授業への対応を模索していく。



### 4. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

#### 所見 1

一般的に貧富の差により、教育の質の違いが言われている。また、教育には、多額のお金が必要となっていて、少子化が叫ばれる要因の一つである。

和泉市の取り組みは、目標である基礎を身につける、学習習慣が身につくといった点において評価されているように、学ぶ楽しさを体験させているようで、大切な取り組みであり、大いに評価できると考える。

西尾市においても、調査、研究をすべきことの一つと考える。ただし、外国人の扱いをここに加えてしまうとなかなかうまくいかないとも感じた。実際に、和泉市では、外国人がほとんどいないとお聞きした。基礎学力の徹底を図る一つの手法として、提案していきたい。

#### 所見 2

子供たちの未来のため、学習習慣の定着、自学自習力の向上および放課後の居場所づくり等を目的に、「和泉塾」開講に向けて協議が進められた。実態調査や協議を重ねていく中で、学力と貧困の相関性を認知し、困窮度の高い家庭をターゲットとして平成29年に「いずみ希望塾」を開講することになった。委託業者(家庭教師のトライ)への年間の運営委託料約4,600万円、会場費約400万円。現在では児童・生徒数420人を受け持っている。5年間の学力データでは、はっきりとした効果は認められないものの、平成29年度比で偏差値は向上していることは事実である。入塾希望者も増えており、予算額の倍増を検討中とのことである。本市においても同様の事業は必要であり、調査、研究すべきである。

#### 所見 3

未来を担う子どもたちのために、確かな学力を育成する取組みの「いずみ希望塾」。学習習慣の定着、自学自習力の向上、放課後の居場所づくりを目的としている。平成29年から始まっている事業だが、参加した児童・生徒の62%に偏差値の向上が見られ、学習意欲もわき、年々申込者も増加にある。結果が出ており、市民からも必要とされている事業であり、本市においても調査・研究し、参考するとよい事業であると考えられる。

#### 所見 4

子どもたちの学習習慣の定着、自学自習力の向上、放課後の居場所づくりというコンセプトには大変共感を受けた。また、困窮家庭の子どものみならず、市民ニーズを感じ取り施策に反映させていることを評価することができる。

それと同時に、学校教育の在り方にも一石を投じる重要な取り組みであると考えられるため、今後の取り組みにも注視し、西尾市においても活用できることはないか模索していきたい。

## 【第3日目】大阪府泉大津市

### あしゆびプロジェクトについて

【日時】令和4年7月13日 10時～11時30分

【場所】泉大津市役所



#### 1. 視察地の概要

泉大津市は、大阪府の南部に位置し、北部・東部は高石市と南部は大津川を境として泉北群忠岡町と隣接している。西北部は大阪湾に面し、はるかに六甲山、淡路島を望むことができる。和泉木綿の集散地となった江戸時代に真田紐をはじめとした繊維産業が興ると、これを地盤に明治以降毛布の製造が始まり、毛布のまちとして発展した。現在も国内産毛布においては9割超のシェアを占める。港湾も昭和初期に近代化され、堺泉北臨海工業地帯の一角を占め、近年は物流拠点としての性格も強めてきている。港湾や中心駅の再開発が進み、人口は2000年代前半までは増加傾向にあったが、平成17年(2005年)以降は減少傾向にある。

#### 2. 調査事項の概要

「誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり」を基本理念としている泉大津市では、平成30年から『あしゆびプロジェクト』としてプログラムを展開し、全国に発信している。賛同する専門家や多種企業と「パートナーシップ宣言」をし、あしゆびの改善とからだ全体の健康との関係性を研究し、産官学医と上手く連携をしている。幼少期は、遊びながら楽しみながら体幹を鍛え、高齢期は、あしゆびを整え、鍛え、身体を支える土台づくりとして行う。幼少期から高齢期まで、全世代の市民に対応するプロジェクトである。イベントや集団検診の場で、測定の体験ブースを設け、現状を可視化することで、鍛えることの大切さを啓発し、市職員も鼻緒のついた草履や雪駄などの着用して、市内外にPRをし、注目を浴びている。地元産業の「毛布の縁(へり)」を使って、編み上げた「モフ草履」を活用し地元産業を守る取り組みをしている。普及・啓発の取り組みとして、バブリーダンスの生みの親である振付師・akane が「あしゆびダンス」を考案し、泉大津市のいたるところで踊るダンス動画をYouTubeで発信している。



#### 3. 主な質疑とその回答

- ① 第2次健康泉大津21計画で「良好な健康状況」「健康への意識の高さ」が上がっていると掲載されていますが、どのような取組をされましたか。

第2次計画では、健康課題への重点施策として「がん・生活習慣病対策の推進」に加え、「子育て世代の健康づくりの推進」や「地域で取り組む健康づくりの推進」など、若い世代からの健康づくりに取り組んだ。

- ② あしゆびプロジェクトが立ち上がった背景と経緯をおたずねします。

健康寿命延伸のためには、生涯寝たきりにならない身体づくりが大切。

高齢者の要介護の原因となる「転倒」は、バランス能力の低下や下肢の筋力の低下から引き起

こされると言われている。子どもの約8割が足に何らかの異常を抱えていると言われており、幼児期から足の指を使った正しい姿勢と動作を覚え、体幹を安定させることが、将来の健康づくりにつながると思っている。あしゆび運動を市民運動として広く知っていただき、幼児教育から高齢者の転倒防止、フレイル予防などを含む健康寿命の延伸まで、あしゆびから展開する健康プログラムを「官民連携」「市民共創」のもと展開し、平成30年度から「あしゆびプロジェクト」として、泉大津市から全国に発信している。



### ③ 具体的な活動はどのようなおたずねします。

1. 足指の力と足部のアーチ(土台)
2. 体幹(軸)
3. 正しい姿勢と動作(骨格)

3つの柱をベースとした取り組みを子どもから高齢者まで全世代をターゲットに展開

#### ◆幼児期

##### ▽親子で運動遊び教室×(株)ティップネス

就学前の親子を対象にし、子ども達が本来持つ身体能力の育成、向上と保護者の運動習慣の動機づけを目的とした親子の交流スペースで実施。

##### ▽足袋シューズ×(株)丸五

民間企業から足旅型シューズの無償提供を受け、モデル円での効果を検証。あしゆびを使った運動を導入。

##### ▽おづみんたいかん体操×木場克己トレーナー監修

日々の保育の中で取り入れられるよう、おづみんたいかん体操プログラム DVD を作成 園所先生への講習会を実施。

##### ▽あしゆび測定×(株)ドリーム・ジーピー×大阪体育大学

市内公立こども園(モデル園)において、4歳児・5歳児を対象にあしゆびの状態や運動能力の測定を実施。

##### ▽ファンクショナルマットで体幹強化×木場克己トレーナー

市内公立園所において、健康な体を維持するため、KOBА ファンクショナルマットを運動遊びで使用。

#### ◆学童・思春期

##### ▽足圧測定×橋間診療所

市内小学校で実施する2測定において、1、2年生の児童を対象に足圧を測定し、浮指の状態や身体のゆがみ、姿勢のバランスを測定。

##### ▽ファンクショナルポールで体幹強化×木場克己トレーナー

市内中学校において、授業や部活動における KOBА ファンクショナルポールの活用を通して体幹強化を推進。指導教員への研修も合わせて実施。

#### ◆10代~80代

##### ▽あしゆび市民モニター×(株)ドリーム・ジーピー

足に悩みのある小学生5年生以上の市民を対象に足の3D測定や足圧測定を実施し、足を整えるためのオーダーメイドインソールを作製、3ヶ月使用し体全体の健康状態への影響を分析・検証。

#### ◆高齢期



▽あしゆび体幹体操×木場克己トレーナー監修  
あしゆびを整え、鍛え、身体を支える土台づくりとして、  
みんなで取り組める体操を作成。自主サークル等で実施。

▽転ばぬ先のあしゆびケア  
足の指や足の裏を意識、転びにくい身体づくりのため、  
あしゆびセルフケア(リーフレット)を作成。

▽介護予防サークル×大阪府立大学  
市内の介護予防自主サークルを対象にあしゆび運動に取り組んでもらい、大阪府立大学大学院看護学研究科の根来佐由美先生が効果検証を実施。

▽筋力レベルアップ教室×スポーツクラブルネッサンス  
スポーツクラブと連携し、65歳以上の高齢者を対象とした「筋力レベルアップ教室」を開。

▽あしゆび測定×ひとり一足運動  
イベントや集団検診の場において、足指力測定の体験ブースを実施。現状を可視化するとともに、あしゆびを鍛えることの大切さを啓発。市職員も、鼻緒のある履物を履いて足指力の強化を実行中。

#### ◆普及・啓発

▽あしゆびダンス×振付師 akane  
振付師 akane が、「あしゆびダンス」を考案。泉大津市のいたるところで踊るコミカルで本格的なダンス動画として発信。

▽おづみんあしゆび体操×市役所職員  
毎週月・水・金の始業前に「おづみん体操の歌」に合わせ、「おづみんあしゆび体操」を実施。



#### ④ どのように産官学医と連携をしましたか。

あしゆびプロジェクトに賛同するパートナーとの「パートナーシップ宣言」(平成30年6月)。パートナーが持つ技術やソリューションを集結し、あしゆびの改善とからだ全体の健康との関係性を研究するため、市内全域でプログラムを展開。

#### ⑤ 市民の反応はどのようなようですか。

- ・足ゆびを鍛えることへの関心が高まった。
- ・足圧のバランスが良くなった。
- ・かけっこが早くなったように感じる。
- ・階段昇降がしっかりできるようになった。
- ・歩き方が変わった ・冷え症が改善された など

#### ⑥ 事業の成果はありましたか。

- ・浮指の改善によるバランス能力の向上
- ・外反拇趾・内反小趾の改善
- ・慢性の疼痛や疲労の軽減
- ・健康への意識の向上

#### ⑦ 現状の課題と今後の目標はありますか。

点での取り組みを、面での取り組みにつなげていきたい。  
市政80周年でリーフレットを作成予定。





さらに普及・啓発活動に力を入れていきたい。

#### 4. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

##### 所見 1

健康寿命延伸のためには、生涯寝たきりにならない身体づくりが大切だが、そのためには、幼少期から足指の力を鍛え、足部のアーチを作り、体幹を鍛えること。また正しい姿勢を幼少期から作ることが大切だと考えさせられた内容だった。またプロジェクトに賛同する専門家や大学、民間企業と『パートナーシップ宣言』の締結し、連携をして、良いデータを出しているところも注視する内容である。市職員も鼻緒のある履物を履いて、勤務することで、市民の関心をひいたこともあり、啓蒙活動につながっていることもあるが、市職員の体質改善の結果が出ていることも普及につながっていると考えられる。現状を可視化することは、健康へ意識のモチベーションにおいて大切である。簡単に取り入れやすい事業であることから、本市においても、提案していきたい。

##### 所見 2

この「あしゆびプロジェクト」は平成 30 年に設置されており、もともとは寝たきりにならない身体づくり、また、高齢者の要介護になる要因の一つ「転倒」を防ぐために考えられ、健康寿命延伸のためのプロジェクトがスタートだった。そして幼児期からこのプロジェクトに触れることにより、将来の健康づくりにつながると考えられ、現在では全世代対象のプロジェクトとなっている。健康促進事業として、各自治体もいろいろな事業を展開しているが、このプロジェクトの特筆すべき点は、多数の賛同する民間の企業、機関が「パートナーシップ宣言」を締結し、強固な連携で取り組んでいる点だ。普及・啓発も振付師・akane と登美丘高校ダンス部OB を起用して、YouTube 動画を発信している点も強く印象に残った。本市においても、健康促進事業に限らず「官民連携」が重要視されているが、いかに強固な連携がとれるか、お互いの信用を得るかが重要であり、難しい課題でもあると感じた。

##### 所見 3

健康寿命全国 1 位を目指しての取り組み、「足指プロジェクト」。  
子どもの約 8 割が足部に何らかの異常を抱えているとのこと。幼児期から「あしゆび」を鍛えて体幹を安定させ、健康な体を維持するための土台作りという担当課の説明に納得と共感をさせられるプレゼンでした。市職員も、庁舎内では草履をはいていて、中には体調改善が図られた事例も。すべての世代がターゲットであり、簡単明瞭な説明により、納得しやすく、身近で手に入れやすいことにより、取り組みやすい。本市においても、すぐにでも実践できることを提案していきたい先進事例であった。

##### 所見 4

健康寿命にアプローチするこのあしゆびプロジェクトは、全庁的に関わりをもって行われていることに興味をもって、評価することができる。  
また、南出市長とも直接意見交換をさせていただき、率先した、積極的な市政運営が行われていることも確認することができ、大変有意義な視察となった。



## 収支報告

項目	支出金額	備考
調査研究費	220,810円	旅費 209,320円 手土産代 11,490円 ※せんべい@3,000×3 送料@830×3
計	220,810円	